

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経済学部
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。

進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学部の理念・目的についてはHP等で社会に公開されているが、学生に対する周知徹底をさらに行う必要がある。	→本学部で毎年発行している雑誌『エコフォーラム』やチャペルを通じて、経済学部の教育目標等の周知徹底。指標としては、チャペルにおける学部長からの講話回数やエコフォーラム誌上での啓発回数。	A	A			
2. 学部の目標等の定期的な検証は学部長室委員会や他の委員会で絶えず行われているが、今後もこれを継続していく。	→指標なし。	A	A			
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目0.0.1	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。 (理念・目的の設定の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→ ● 理念・目的を設定している ○ 理念・目的を設定していない (理念・目的) 経済学というツールを使って経済現象を的確に捉え分析し、新聞の経済記事等を自在に読める人材、企業が求めていると考えられる経済学という基盤を持った実践力を有した人材の育成を行う。(※理念抜粋) (説明) 学部の理念については、適切であり、それを実現する目的については、社会等の変化を考慮しながら変更をする必要があるが、2009年度に設定したばかりの現在の目標については、その実現に努力しているのが現状である。
★ 小項目0.0.2	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。 (周知・公表の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→ ● 周知・公表している ○ 周知・公表していない (説明) 教育理念・目的は学生配付要覧「履修心得」に掲載し、学部ホームページにも掲載している。また学部ホームページには学部教育に関するさまざまな情報が掲載されているが、さらに内容改善を図り、新たな企画（社会で活躍されている卒業生の紹介ページ『目指せ関学経済人』を作成し、定期的に更新する）を提案、2010年度から実施した。さらに、在学生に対しては、経済学部チャペルと学部発行雑誌『エコフォーラム』を通して、理念の啓発活動を行っている。
小項目0.0.3	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→→ ● 検証している ○ 検証していない (説明) 学部長室や各種委員会で審議した内容を教授会に諮り、改善に向けての努力を行っている。上記のホームページ改善などのはその一例である。
その他	

《評価指標データ》

本学の育成した人材（卒業生）に対する社会（企業）の評価
 卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか【基本的な基礎データ】
 卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率【基本的な基礎データ】
 卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率
 在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
 理念の周知について(1)－理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数
 理念の周知について(2)－総合コース「『関学』学」の履修者数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	2010年度は宗教主事が留学中であったため、チャペル回数を週3回(月水金)とし、年間実施回数は88回(2009年度は133回)にとどまったが、学部長による合計8回の講話、新入生オリエンテーションによる啓発回数は継続した。『エコノフォーラム』にはチャペル講話を含め、経済学部の教育を中心に記事を掲載し、2011年3月に5,000部発行した。在学生に配付した他、オープンキャンパス等でも高等学校・受験生・保護者にも配布する予定である。
小項目0.0.3	
その他	

↓

【次年度に向けた方策(1)】伸ばさせるための方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	2011年度は宗教主事が留学より戻るため、チャペルを週5回に戻す。エコノフォーラムをより多くの学生、および一般に周知できるよう、ホームページ掲載を考える。
小項目0.0.3	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

その他(自由記述)	
-----------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○学部の理念・目的の設定、検証はしっかり出来ています。個々の学生に深く浸透することが期待されます。

【学内委員】

○学部の目標などの検証について、できれば検討の場だけでなく、検証の方法についても触れていただけないでしょうか。

○宗教主事によるチャペルでの活動を含め、理念・目標について学生・教職員へ周知させる活動が順調に進展しています。

○理念・目的について、学部ホームページにおいて「教育理念」「教育目標」として明示されています。また、周知、公表について努力されています。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・理念の浸透に関して教員への徹底に関する働きかけも記述してはどうでしょうか。

・学部の理念・目的を学生に周知徹底させる取り組みが評価できます。次の段階として、その理念・目的が経済学部生に浸透していることが量れるような、中期的な目標・指標の設定が期待されます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目0.0.1

基盤評価：「学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること」「高等教育機関として大学が追求すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること」

達成度評価：「建学の精神、目指すべき方向性や達成すべき成果等を明らかにし、当該大学、学部・研究科の理念・目的として適切である」

○小項目0.0.2

基盤評価：「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること」

達成度評価：「理念・目的の周知・公表に関する各種方策（周知・公表の有効性や方法の適切性等の定期的な検証・改善など）をとり、当該大学に対する理解向上につながっている」

○小項目0.0.3

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、理念・目的の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★学部の理念・目的・教育目標の適切性については執行部で絶えず検証を行なっているが、「検証する仕組み」は、執行部にて適切な評価指標を出したうえで、学部自己評価部会などにより点検する仕組みを検討する。